

第3学年「算数」の学力向上のための方策

児童の実態（成果と課題の分析）

成果 ○ 学習に対する、意欲や関心が高く、和差積の基本的な計算方法が身についている。

課題 ▼問題解決の時、自分の言葉で説明することが課題である。

▼測定や数量などの理解が不十分で、感覚がつかめていない児童が数名いる。

指導の重点（身に付けさせたい力）

- ◇ 具体物や操作活動等の体験を通じた量感。
- ◇ 自分の意見を持ち、自分の言葉で説明する力。

具体的な改善策

- 算数的活動を通して、具体物を操作したり、実際の大きさや量を見たり体感したりする。
- 問題解決学習の際に、自分の考えを持ち、考えを共有する体験を積み重ねる。
- タブレットなどを用いて、既習学習の復習、確認を着実にいったうえで、新たな学習を積み重ねていく。

達成目標

- 必要に応じて具体物や図などを用いて数の表し方や計算の仕方などを考察する力、身の回りの事象を図形の性質から考察したりする力、量の単位を用いて的確に表現する力、簡潔に表現したり適切に判断したりする力などを養う。
- 数量や図形に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようとする態度を養う。
- 数の表し方、整数の計算の意味と性質、小数及び分数の意味と表し方、基本的な図形の概念、量の概念、棒グラフなどを理解し、数量や図形についての感覚を豊かにするとともに、整数などの計算をしたり、図形を構成したり、長さや重さなどを測定したり、表やグラフに表したりすることなどについての技能を身に付ける。